

「ソロ」から「チーム」へ 学校事故対応力を高める3ステップ研修

本資料は、学校事故対応に関する実践をもとに作成した、校内研修用プログラムです。

令和8年3月

香川大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻 学校力開発コース 河田 美穂

1 研修の目的

救急車が到着するまでの約10分間の初動対応において、一人でも対応できる（ソロ対応）力と数人で連携して対応する（チーム対応）力を養います。

2 3つの研修ステップ

短時間で取り組み、段階的に学びを深める構成です（図1）。



図1 研修の構成

3 活用ツール

全ての研修で、初動対応の10の行動項目（図2）を整理した対応図（図3）を活用します。対応図はネームカードサイズとし、ネームカードの裏面に収めて日常的に携帯できるようにすると便利です。

【10の行動項目】
①身の安全の確保・指示
②状況確認
③応急処置
④応援要請
⑤119番通報
⑥AEDの手配
⑦心肺蘇生法
⑧周囲の児童対応
⑨家庭連絡
⑩記録

図2 10の行動項目

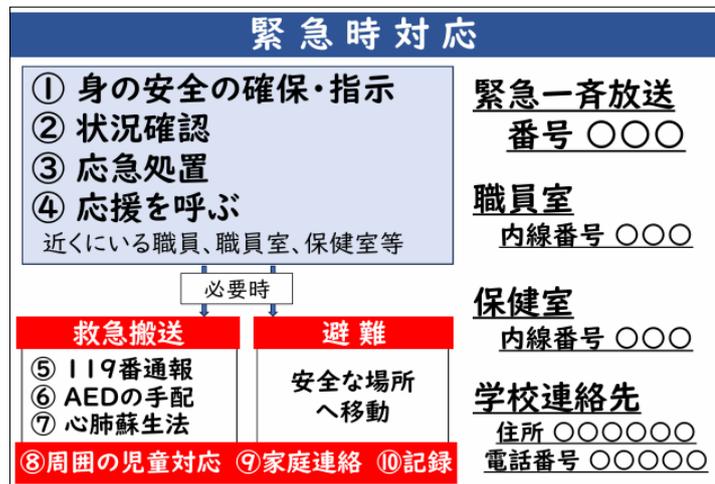


図3 対応図

4 本研修の特長：シナリオ非提示型

あらかじめ役割を決めないことで、実際の緊急場面に近い「誰が・何をすべきかその場で判断する」実践的な体験が可能です。

5 研修内容

【ステップ①】：ソロ研修

所要時間：13分（自由記述3分＋行動項目の確認10分）（図4）

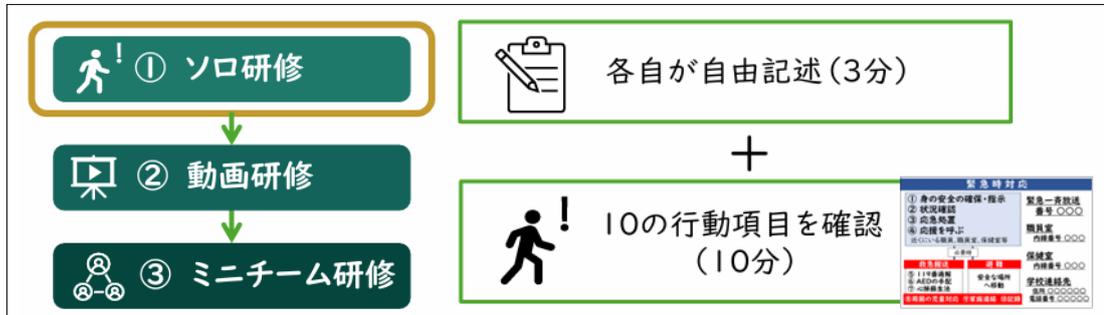


図4 ①ソロ研修の内容

(1) 目的

一人でも迷わず行動を開始できる「ソロ対応力」の強化。

(2) 実施方法

- ① ワークシート(図5)を配布します。

【想定事例】

昼休み体育館で、子どもたちが遊んでいる。
 その中で遊んでいた児童 A が突然倒れた。
 児童 A は顔面蒼白で、呼びかけに反応はない。
 あなたはその場に居合わせた。
 近くに他の教職員はいない。

【問い】

上記の想定事例を踏まえ、あなたは、最初の 10 分間にどのような対応をしますか。
 箇条書きで具体的にご記入ください。

図5 ソロ研修のワークシート

- ② 第一発見者の立場に立ち、各自が 3 分間で考え、記述します。
- ③ 記述後、対応図をもとに、初動対応に必要な 10 の行動項目を確認します。

【ステップ②】：動画研修

所要時間：20分(動画視聴 約10分+意見交流10分)(図6)



図6 ②動画研修の内容

(1) 目的

組織的な「チーム対応」の具体的イメージの共有。

(2) 実施方法

- ① 実際の小学校における救命事例を紹介した約10分間の動画を視聴します。

【出典】

朝日新聞社(2021)「【A Scene】15分間の奇跡 先生たちの救命リレー」

<https://www.youtube.com/watch?v=a7IHcvEzRn8>

- ② 視聴後、組織的な連携のポイントや教職員の役割などについて、意見交流を行います。

【ステップ③】：ミニチーム研修

所要時間：約 20 分（実地演習 10 分＋振り返り 10 分）（図 7）



図7 ③ミニチーム研修の内容

(1) 目的

状況に応じたリアルな「チーム対応」の体験。

(2) 実施方法

- ① 3～4 人程度（学年団など）の少人数（ミニチーム）で、教職員がそれぞれ通常の担当教室などにいる状態から開始します。演習を行う教室には、訓練用の人形（他の物品でも代替可能）を置いておきます。
- ② 想定事例を1名の参加者に手渡します。

【想定事例】

授業開始前、あなたが教室に戻ると、子どもたちが教室の中央に集まり、騒いでいる。児童は不安そうな表情を浮かべており、「先生、Aさんが…!」と声を上げる児童もいる。中央を確認すると、児童 A が床に倒れている。あなたは児童 A に呼びかけるが、反応はなく顔色は青白い。周囲の児童は動揺しており、泣き出す児童もいる。教室内はざわついた状態である。

- ③ 実地演習（図8）を行います。
- ④ 演習後、振り返りを行い、対応の流れや改善できる点などについて共有します。

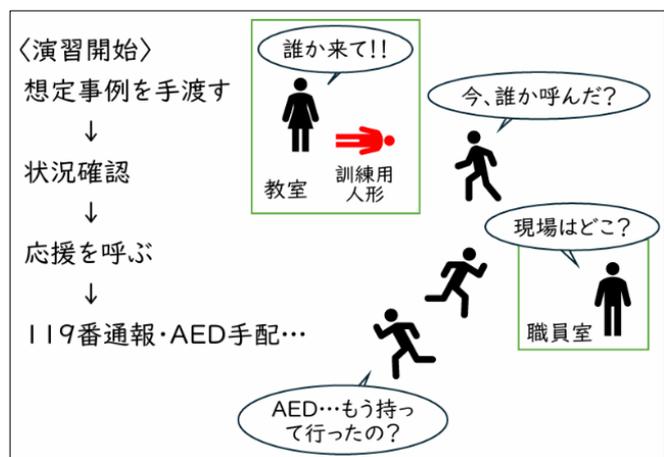


図8 ミニチーム研修の演習例

以下は、本プログラムの元となった実践の中で寄せられた受講者の声です。

【研修後のアンケートより】

- ・「もしもの時を具体的にイメージすることができた」
- ・「自分事として考える機会となった」
- ・「いざという時どのように行動すればよいか考えることができた」

【研修一定期間後のアンケートより】

※ 研修効果の定着状況を把握するために、一定期間後に追加アンケートを実施しました。

- ・「何か気になることがあった時や、児童が怪我をした際には、他の教職員に声をかけながら対応しようという意識をもつようになった」
- ・「普段の学校生活の中でも、『ここで何かあったらどう対応するか』と立ち止まって考えるようになった」
- ・「児童一人ひとりの体調や表情の変化に、これまで以上に注意を向けるようになった」
- ・「学年団として日頃から子どもたちの様子を話し合い、情報を共有する機会を大切にするようになった」

【参考文献】

朝日新聞社(2021)「【A Scene】15分間の奇跡 先生たちの救命リレー」

<https://www.youtube.com/watch?v=a7IHcvEzRn8>

(参照 2026.03.12)

学校安全の推進に関する有識者会議(2025)「学校安全の推進に関する組織体制の整備と地域等との連携について～複雑化・多様化する課題に対応するための、実効的・持続的で安全・安心な学校づくりに向けて～審議のまとめ」

総務省消防庁(2026)「令和7年版救急・救助の現況」

中央教育審議会(2022)「『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～『新たな教師の学びの姿』の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～(答申)」

文部科学省(2022)「第3次学校安全の推進に関する計画」

文部科学省(2024)「学校安全の推進に関する計画に係る取組状況調査(令和5年度実績)」